

社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ

2025年3月3日(月)・5日(水)・6日(木)・7日(金)
講師：金明中先生(ニッセイ基礎研究所上席研究員、亜細亜大学特任准教授)



現代女性キャリア研究所では、2012年から学内の学生・教職員を対象として、『社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ』を開催しています。今年度の講義では、SPSSの基本操作からデータの加工などの基礎知識を扱う基礎編、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析等を扱う応用編が各2日ずつ開催され、計4日にわたり実践的な学習が行われました。様々な学部・専攻より幅広い方々にご参加いただき、本年度も大変好評なワークショップとなりました。

ワークショップ「夏のキャリアスタートアップセミナー」

2024年9月19日(木)
講師：安斎徹先生(清泉女子大学教授)

9月19日(木)、清泉女子大学教授の安斎徹先生をお迎えして、『キャリア・スタートアップ・セミナー ～アニメ映画とジェンダー論から、これからのキャリアを考えよう！～』を日本女子大学の学生向けに開催いたしました。身近なアニメ映画や参加型のワークショップを通じて、これからのキャリア(生き方・働き方)を考えるきっかけを提供し、今後のキャリア形成に向けて自ら考える良い機会となりました。ワークショップでは、初対面の学生たちが助け合いながらプロジェクトを遂行する様子もみられ、自ら行動する意欲を醸成するとともに、目標に向かって協力することの重要性を体験する貴重な経験となり、大変好評をいただきました。



RIWAC-DA

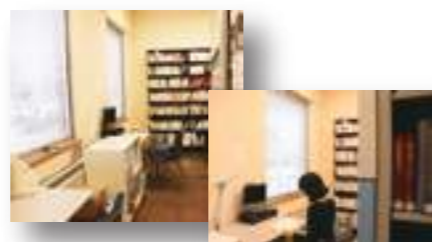
(リワック・データ・アーカイブ)

国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌データをデータベース化しネット上で公開しています。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。

所蔵件数 1627件(2025年3月1日現在)

<https://search.riwac.jp/>

RIWAC 資料室のご紹介



資料室にキャリアに関する文献を多数所蔵しています。閲覧をご希望の方は当研究所へお問い合わせください。

『現代女性とキャリア』発行

年に一回、『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか、主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所や学内のキャリアに関する事業活動についての報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております。詳細はHPをご参照ください。本書をご希望の方は送料負担のみでお送りいたします。メールにて当研究所へお問い合わせください。



お願い

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<https://search.riwac.jp/>)を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI*WAC

日本女子大学

現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

Email riwac@fc.jwu.ac.jp URL <https://riwac.jp/>

非婚・少子社会への視座

—若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状—

2024年12月14日（土）実施



ニッセイ基礎研究所 上席研究員
金明中



武蔵大学 社会学部 教授
千田有紀



日本女子大学 人間社会学部 教授
林浩康



日本女子大学 人間社会学部 教授
現代女性キャリア研究所 所長
永井暁子

12月14日（土）に「非婚・少子社会への視座—若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状—」と題するシンポジウムを開催いたしました。オンライン参加を含め、全国から150名を超える参加者を迎え、盛大な会となりました。

第一部では、ニッセイ基礎研究所 上席研究員の金明中先生、日本女子大学 人間社会学部 教授の林浩康先生、武蔵大学 社会学部 教授の千田有紀先生をお招きし、3名の先生方にそれぞれご講演いただきました。

金明中先生には「日韓における少子化の現状と対策の比較：なぜ日本の出生率は韓国を上回っているのか」というテーマでご講演いただきました。

日本と韓国における少子化の現状や原因について教育、経済、女性労働、居住環境などの視点から、両国の共通点と相違点をご説明いただきました。現在日本の合計特殊出生率は1.20、韓国の合計特殊出生率は0.72と数値の違いはあるものの、両国の少子化の原因には類似性が多く、日韓それぞれが互いの少子化対策を参考にする必要がある。とくに若者の労働環境の改善、子育て費用の負担軽減、未婚率・晩婚率の改善のための政策が重要であると述べられました。

林浩康先生には「養育における家庭・地域の位置付けと児童福祉施策への影響～高度経済成長期以降の福祉政策の動向を踏まえて～」というテーマでご講演いただきました。

林先生はまず、児童福祉政策における家庭の位置付け、家庭機能の評価とそれへの対応について、高度経済成長期以降からの変遷を整理されました。その中で、養育の社会化とその抑制との揺れ動く養育観が見られながらも、家庭機能を

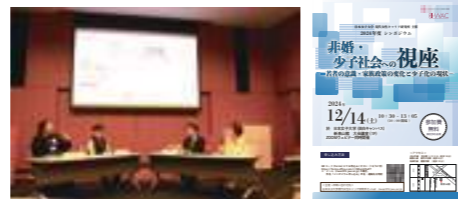
強化するという考え方の浸透は、子どもへの支援ではなく養育者を支援するという視点が強化され、家庭責任の強化、国家が子育てを親に任せるといった結果をもたらしているという点について指摘されました。

千田有紀先生には「若者の結婚観・恋愛観の変容「愛情」と「合理性」との狭間で」というテーマでご講演いただきました。

結婚を取り巻くこれまでの社会や認識の変化について述べられ、結婚すること、結婚する意向があることが当たり前とされてきた社会において異を唱えた酒井順子『負け犬の遠吠え』や上野千鶴子『おひとりさまの老後』など、結婚にまつわる代表的な書籍が紹介されました。その後「大学生の恋愛と友情にかんする意識調査（2017年～2019年）」の結果を用いて、結婚しなくてもよいという若者たちの意向について、人間関係に関する規範や親密性の変容という点から問題提起がなされました。

第二部では、ご講演くださった3名の先生方と、日本女子大学 現代女性キャリア研究所 所長の永井暁子先生による全体討論と質疑応答が行われました。フロアとオンラインから集まったご質問に対する各先生のご意見をいただきながら議論を深め、活発なパネルディスカッションとなりました。今回のシンポジウムでは、「日本における非婚や少子社会」について、制度や社会背景について歴史的変遷を再考するとともに、現在の人々の意識の変化を考える大変貴重な時間となりました。

当日の様子▶



ジェンダー教育の現在

2024年11月9日（土）実施

成城学校小講堂にて、ジェンダー教育シンポジウム「ジェンダー教育の現在（いま）～これからの男性の生き方～」を開催いたしました。

現代女性キャリア研究所 所長・永井暁子に加え、教育ジャーナリストであるおおたとしまさ氏による講演を行いました。臨床心理士・公認心理士ならびに成城中学スクールカウンセラーである櫻井由美氏を加えたパネルディスカッションでは、活発な議論が交わされました。約100名もの参加者を迎え、ジェンダー教育について改めて推る良い機会となりました。



第1回研究会

島根大学教育学部 小学四年課程
初の女子卒業生のライフヒストリー
—樺太出身の小学校教師・島田徳子氏の場合—
5月31日（金）15:15～16:45

甲南女子大学の島田博司先生をお迎えして、研究会をオンラインで開催いたしました。新制大学に進学する女子がまだ少ないなか、生まれ育った樺太からの引き上げ後に、島根大学の教育学部 小学四年課程を女性ではじめて卒業した島田徳子氏のライフヒストリーが紹介されました。小学校教師として、家庭人としての生き方に加え、退職後のくらしまでがインタビュー調査によって明らかになっています。学内の先生方に加えて、遠方の他大学からも参加いただき、踏み込んだ質問も多く行われ、闊達な質疑応答が行われました。

研究所 HP、刊行物に Riwac Research Series として成果物を掲載しています。

参加申し込みはこちらから（5月29日㊞）
<https://forms.office.com/r/ngk3eVwYkG>

第2回研究会

英国における離婚、家族、マイノリティコミュニティとドイツの難民女性に対するソーシャルワーク
7月5日（金）15:15～16:45

フランクフルト応用科学大学のチャイタリ・ダス先生をお招きしてハイブリッドでの研究会（逐次通訳）を開催いたしました。「英国における離婚、家族、マイノリティコミュニティとドイツの難民女性に対するソーシャルワーク」と題して、様々なマイノリティに関する先生の研究の中から、二つのプロジェクトが紹介されました。一つは、離婚を経験したインド系英国人の子供たちに着目し、彼女／彼らが成人した後にインタビュー調査を行ったものです。もうひとつは、フランクフルトとその周辺地域における難民女性に着目し、彼女たちへのサービス提供を模索するために行われた聞き取り調査に基づいた報告です。これらの研究では、マイノリティ化された女性が直面する問題のいくつかに光を当てるための、精選された見識が引き出されました。

第3回研究会

現代社会における言語研究の役割
12月19日（木）18:00～19:30

シドニー大学の米澤陽子先生と日本女子大学 学術研究員の宮崎あゆみ先生をお招きして、ハイブリッドでの研究会を社会福祉学専攻と共催で開催いたしました。

お二人のキャリア形成の過程における言語研究との出会いから、言語研究が明らかにする新しい視座など、現代社会における言語研究の重要性やその展望について、お話いただきました。具体的な調査内容として、米澤先生は「人称詞・言語と文化社会との関係性」など、宮崎先生は「ジェンダー—人称の解釈・交渉のプロセス」など、お二人の研究が「人称」に着目しているなどの共通点もあり、理解を深める良い機会となりました。

学内の先生方や大学院生など多くの方にご参加いただき、活発な質疑応答も行われ、限られた時間のため惜しまれつつ終了いたしました。

第4回研究会

韓国における高齢者雇用政策の動向
2月19日（水）18:00～19:30

国立江原大学校比較法学研究所の朴修慶先生をお招きして、オンラインでの研究会を多世代交流研究会との共催で行いました。

昨年の暮れに超高齢社会に突入した韓国社会における高齢者雇用政策及び法制度が取り上げられました。韓国における高齢化と高齢者雇用の現況を概観し、高齢者雇用や定年・再雇用などを定めている『雇用上年齢差別禁止及び高齢者雇用促進に関する法律』の内容が分析されました。韓国の経済社会労働委員会（Economic, Social and Labor Council）で議論されている新しい高齢者雇用政策の動向についても紹介されました。日本も超高齢社会であることから多くの関心を集め、たくさんの方にご参加いただき、発表後には多くの質疑応答が行われ、有意義な意見交換をすることができました。

オープンキャンパス展示

6月16日（日）、8月3日（土）、8月4日（日）のオープンキャンパスに RIWAC のブースを開設し、多くの方に研究所の活動をご覧いただきました。

▼当日の様子

